

市民意識調査等の結果概要

◆ 参照した資料

- ・平成 24 年度実施「これからの地域コミュニティと市民自治の検討のための基礎調査」
 - ・平成 26 年度実施「武蔵野市市民意識調査」
 - ・平成 27 年度実施「特定非営利活動法人及び市民の社会貢献に関する実態調査」
- ※概要を参考資料として提示

◆ 調査結果の特徴

- ・地域への関心は市内全域・全世代において概ね高い割合である。
- ・住みやすさ向上のための活動意向（今後参加したい）も、特に、30 歳代・40 歳代で 4 割以上、50 歳代で 5 割以上に今後の活動意向があり、低くはない。
- ・市民活動・地域活動への入口（地域とのつながりの契機）として、若い世代にはイベントも有効。
- ・子どもを持つ方の地域への関心が高い。
- ・コミセン・武蔵野プレイスへの期待がある。
- ・「気軽に参加できること」が望まれている。
- ・ボランティア活動に関心がある人は 6 割近くいるが、実際にボランティア活動をしたことある人は、2 割程度。
- ・ボランティア参加理由は、「社会の役に立ちたいと思ったから」、「活動を通じて自己啓発や自らの成長につながると考えるため」が多い。参加妨げの要因としては、「活動に参加する時間がない」、「活動に参加する際の経費（交通費等）があり、経済的負担が大きい」、「ボランティア活動を行いたいが、十分な情報がない」
- ・国や地方自治体に対して、ボランティアを受け入れる団体・NPO 法人等に関する情報提供や情報発信の充実を求める声が高い。

◆ 調査結果から見える現状の問題点

- ・仕事や家事が忙しく、参加する時間がない。
- ・参加のきっかけや機会がない。
- ・参加するための十分な情報がない。
- ・居住年数の比較的短い方の関心が低い。
- ・子育て世代・子育て卒業世代の参加が少ない。
- ・女性に比べ、男性の参加が少ない。